

## 令和3年度 金沢市森づくり市民会議（第2回）

日 時：令和3年10月11日（月） 13時30分～15時00分

会 場：金沢市役所第2本庁舎2階 2202会議室

出席委員：池田委員、石原委員、大河原委員、金森委員、河崎委員、  
杉野委員、永井委員、西多委員、増江委員、水越委員、森委員、  
柳井委員

欠席委員：石村委員、橘委員、能木場委員（五十音順 敬称略）

事務局：長谷農林水産局長、西川森林再生課長 ほかに7名

### 【次第】

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 議 題
  - (1) 令和3年度森林再生施策の進捗状況について
  - (2) 森林環境譲与税活用検討会の提言について
  - (3) 令和4年度市民会議での課題について
- 5 令和4年度予算に向けた意見交換
- 6 閉 会

### 【議事録】

事務局より説明

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 令和3年度森林再生施策の進捗状況について</li><li>(2) 森林環境譲与税活用検討会の提言について</li><li>(3) 令和4年度市民会議での課題について</li></ol> |
|--|

（会長）

「令和3年度森林再生施策の進捗状況について」で意見はないか。

（委員）

家族で森に行って木を植えてほしいと記載されているパンフレットがあったが、苗木を植えていい森はあるのか。

（事務局）

個人が所有する民有地には、勝手に木を植えることはできないが、新田上小学校建設時に、地域の市営造林の木を使用することとし、伐採後、新田上小学校の

学童林として児童が植樹することを検討している。また、海岸林については地元の児童たちが現在も植樹を行っている。

(会長)

「森林環境譲与税活用検討会の提言について」意見はないか。

(委員)

提言では「森の博物館」を創出するとなっているが、多くの人が森に入ることにより、ゴミなどで森が荒らされないか心配だ。

(事務局)

環境管理についても、協力団体に指導しながら行っていく。

(委員)

市民が森に親しみを持てるような施策が必要だと感じた。山村集落を利用したモデル地区(基地)をつくり、森林に関する情報の発信や、森林に親しみを持てるイベントを実施するための地区を決めてみてはどうか。創作の森のような場所を山村集落につくれないだろうか。単発で終わるのではなく、継続して行えるような取り組みを行ない、魅力を発信できるようにしていくべきだ。

また、いろいろな業態とコラボした木製商品の開発や大きな店舗の木質化などインパクトのある取り組みを行い、魅力を発信できるようになったらよいのではないか。

(事務局)

現在も、森のようちえんで牧山町などを利用させていただいている。地元の協力と理解をいただきながら、山村集落で今後もイベントを行っていききたい。

コラボについては、林業大学校出身者が湯涌地区で地域おこし協力隊として地ビールの開発を行うなど活性化に寄与している。今後も同様の取り組みができないか検討してみる。

一過性で終わらないためには、提言書に記載されてあるとおり、①コアづくり②場所づくり③人材づくりが重要だと思っている。市民会議の委員からの意見を取り入れながら継続した取り組みをしていきたい。

(委員)

いつまでにどのような状態になっていけば、提言書に記載されている「森と共生する金沢」「木の文化都市金沢」になるのか。「くらしの森プロジェクト」では、

小学校の児童机の天板を金沢産材にする取り組みは、一度やってみたが難しかった、という報告を受けた覚えがある。もう一度事業を行ってみて、金沢市内の50パーセントの学校に取り入れられたら、「木の文化都市金沢」に近づけたということになるのか。

(事務局)

この提言は、森林環境譲与税活用検討会での活用の方針を定めるものである。数値や期限に関する目標は「金沢の農業と森づくりプラン 2025」での設定となるため、今回の提言をもとにプランの見直しを図っていきたい。

(委員)

森林を守る取り組みの中で一番大切なのは、「こころの森プロジェクト」だと思う。市民一人一人の意識が変わらないと「いのちの森プロジェクト」にはつながらない。市民が森に親しめる機会を増やしていくことが大切だと思う。その上で、「森に親しむ活動の推進」で報告のあったパークゴルフ広場の拡張整備は、果たして森に親しむことに直結しているのか疑問だ。施設を整備することで森に来る機会を増やすことにつながるが、一方で森を切り崩さなければならないため、この2つの意見をすり合わせることに難しいと思う。「こころの森プロジェクト」を行う際は、この問題を頭に入れて取り組んでほしい。

また、海岸林の松林の伐採はこれ以上行わないでほしい。野鳥が少なくなった印象がある。植林作業を進めてほしい。

(委員)

ゴルフ場は、保安林に指定されているため、これ以上は広げることはない。松林については、マツクイムシなどの病気対策での伐採であるが、今後もプランに定めた植林作業を進めていく。

(委員)

これから高齢化社会になるため、市内で数時間や数日かけて森林を散策できるような様々なルートでの散策路を整備し、市民の健康向上を図りつつ、森に親しめる場所をつくれたらいいと思った。またドイツでは、森林セラピーが治療法として保険適用となっていると聞いたため、今後市の事業でも参考にしてほしい。

(事務局)

諸外国の先進的な取り組みを参考にしながら、まずは勉強させてください。

(委員)

森林内の整備にあたり、重機を入れることになるが、重機を入れるために周りの木も余分に切ってしまうことがある。重機に頼るのではなく、手作業で整備ができないか考えてから整備を行ってほしい。

また、雑木林が竹林に侵食されている様子も見受けられるが、金沢市内の被害状況とどのような対策を行っているのか示してほしい。

(事務局)

機械に頼らない自伐型林業を現在研究しているところである。また、竹林については毎年 10～20ha を民有天然林再生整備事業で伐採支援をしているが、整備が追い付いていないのが現状であり課題となっている。

(委員)

森を大切にするためには、人の心を育てることが難しいと思う。

開発に伴って地域外の植物が入ってくることを防ぎ、地域の植物を守ることが大切だ。また大人が森や自然に興味を持たないと、子どもたちも興味を持ってくれないので大人の意識改革を行うことが大事だと思う。

(委員)

金沢市内の木材に対する需要が少ないこともあり、供給体制は非常に少ない。ウッドショックは今後発生しないと思われるため、ウッドショックへの対応ではない供給体制の構築についてどのように考えているか教えてほしい。

(事務局)

まずは公共事業において金沢産材を使用することで需要を増やしていきたい。市長からも市の施設に金沢産材を積極的に使用するよう、言われている。

また、供給量を増やすための市営造林の主伐も併せて検討していく。

(委員)

金沢市では、今後金沢産材の供給量を何m<sup>3</sup>にする目標なのか。

(事務局)

金沢の農業と森づくりプランでは、2,500 m<sup>3</sup>と設定されている。県の新しいプランでも県産材の供給量を倍増した目標を設定しており、市も増やしていきたい。

(会長)

「令和4年度市民会議での課題について」で意見はないか。

(事務局)

近年課題が多岐複雑化しており、議論するための時間が非常に少ないことが課題となっている。

(委員)

市民会議では深い議論ができない。分野ごとに市民会議の委員だけでなく、専門家も含めた分科会を開いて議論を行い、その内容を市民会議で提言できるようにするべきだ。市民会議の回数を増やすことも有効だ。

また、森林環境譲与税が来年度から配分されることとなり、森林再生課の業務が増えることになるが、職員数が足りていないように思われる。人員を増やす努力をしてほしい。

(委員)

この市民会議は、森林施策に関するアイデアを出す場なのか、森林再生課の提案を深掘りするための場なのか、またその提案に対し決裁をとる場なのか、切り分けたほうが良いと思う。

(委員)

分野が広いので、意見をまとめるのが大変だと思う。

(委員)

他の金沢市が開催している審議会だと分科会を開いていることが多い。市民会議も分科会を設置し、市民会議は分科会の内容を提言する場にすべきだ。

(事務局)

条例では市民会議は幅広いことについて議論するように記載されている。金沢の農業と森づくりプランの制定に向けた議論や議員からの提言に関しても検討していく必要がある。